

大会時・コロナ禍での取組

- ・2014年：在宅勤務規則を定め、育児や介護の必要がある社員が利用できるようにした
- ・2017年：シンククライアント環境^(※1)への切替に合わせて在宅勤務を本格的に導入

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約7割。工場操業に関係する従業員は全員出社
- オフピーク通勤
- 会議等のオンライン化・・・社内外ともにオンライン会議
- 書類の電子化・・・従前より実施（メール添付）。原本は郵送

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 発注時期の調整
顧客に対して営業経由で、大会期間中を避けて発注いただくよう文書でお知らせ
- 顧客への事前の情報提供
大会期間中は指定時間通りに配送できない可能性を、口頭及び文書で事前に周知

取組ポイント

- シンククライアント環境のPCを追加で準備するほか、BYOD^(※2)の活用でテレワークを推進
- 通信環境の充実などインフラ整備への投資
- 柔軟性を持たせた勤怠管理（早出・遅出、混雑前退社等）

取組ポイント

- 顧客側の不安解消のため、文書のほか、営業からも直接説明を実施

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

□ テレワーク

2021年に在宅勤務規則をテレワーク規則に改め制度拡充を図り柔軟な働き方を推進

(※1) シンククライアント環境：ユーザーが使用する端末（クライアント端末）の機能は必要最小限にとどめ、サーバー側で処理を行う仕組みのこと

(※2) BYOD：従業員が所有する私物デバイスを業務に使用すること

物の流れ

□ 今後も大きなイベントが行われる際には、同様の対応を実施

※過去のサミット開催等でも大規模な交通規制がある際は、その前段階でイベント期間中の納品を避けてもらうよう、顧客にアナウンスを実施

【東京2020大会を振り返って】

- ・埼玉、千葉、茨城への通過交通で、湾岸線や環状線の混雑を危惧していたが、ほぼ問題はなかった。特に、都内への配送を心配していたが、実際は、都内よりその周辺部が多かったため、あまり精緻なシミュレーションまでは行わなかった。
- ・浄水場や下水処理場に薬剤を納品しているが、有観客開催となった場合は観光客も増え、通常よりも需要は大きくなり、夜間の急なオーダーが発生するなど影響度も大きくなることが予想された。実際には、無観客開催であったため影響はなかった。
- ・今回の東京2020大会に限らず、物流に関しては普段から様々なことを顧客に依頼しており、顧客側も対応に慣れてきていると感じている。特に、災害で道路が寸断される場合など、その影響は被災していない所にも波及するため、その情報を顧客にアナウンスして協力してもらうことは既に実施している。